

「不知火」の生育期における果実肥大予測

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

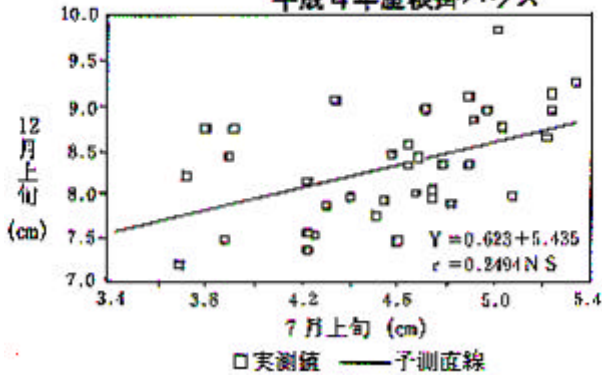
研究のねらい

不知火の果実の均一化を図るために、果実肥大期(摘果時期)から12月時の果実の大きさを予測し、摘果基準の基礎資料を検討した。

研究の成果

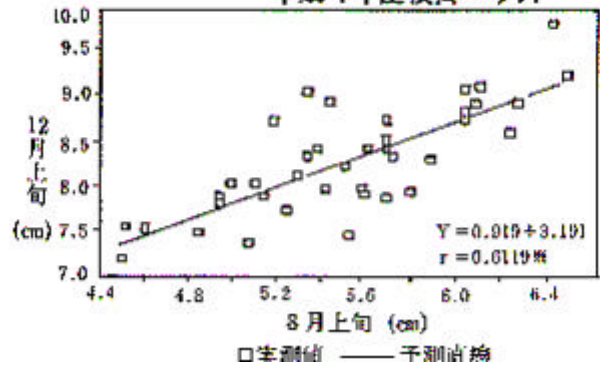
1. 屋根かけハウスでは、8月上旬と12月上旬の間には、相関係数 $r = 0.6$ 以上、8月中旬と12月上旬には $r = 0.7$ 以上の相関がみられた。
2. 露地では7月上旬と12月上旬の間には $r = 0.5$ 以上、8月上旬と12月上旬には $r = 0.6$ 以上、8月中旬と12月上旬の間には $r = 0.7$ 以上の相関がみられた。
3. 7月上旬の予測では $r = 0.5$ 以上の相関がみられるが、有意差が低い傾向がみられる。
4. 以上の結果、8月上旬以降では相関が $r = 0.6$ 以上となり、肥大の予測が可能である。

第1図 デコボン肥大予測
平成4年屋根掛ハウス



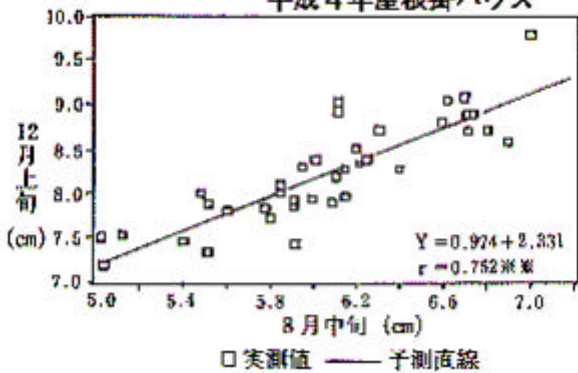
(7月上旬)

第2図 デコボン肥大予測
平成4年屋根掛ハウス



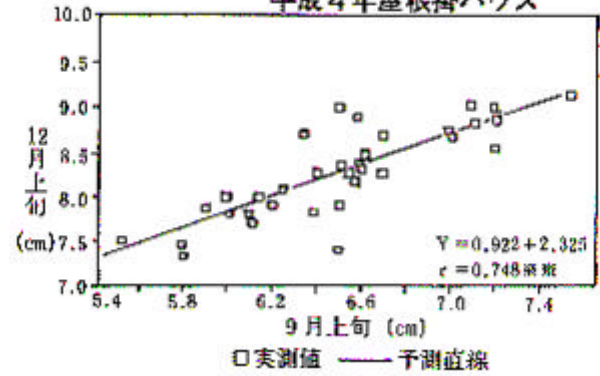
(8月上旬)

第3図 デコボン肥大予測
平成4年屋根掛ハウス



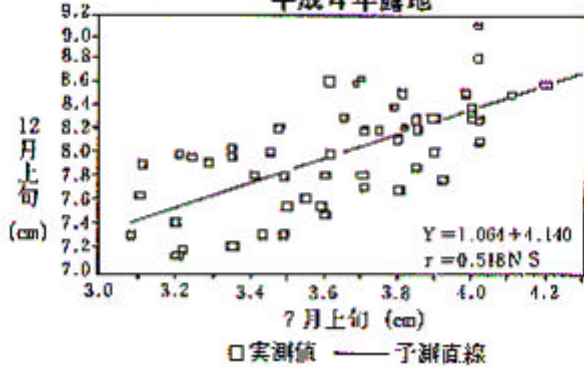
(8月中旬)

第4図 デコボン肥大予測
平成4年屋根掛ハウス



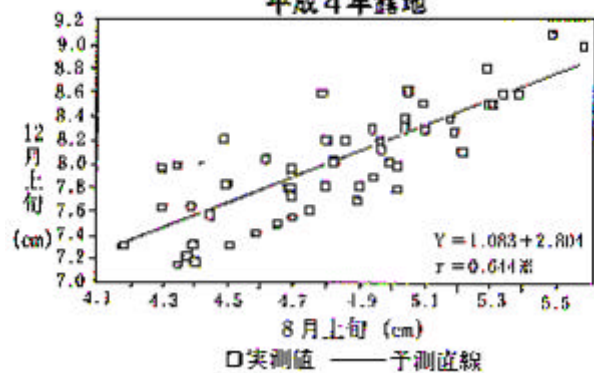
(9月上旬)

第5図 デコボン肥大予測
平成4年露地



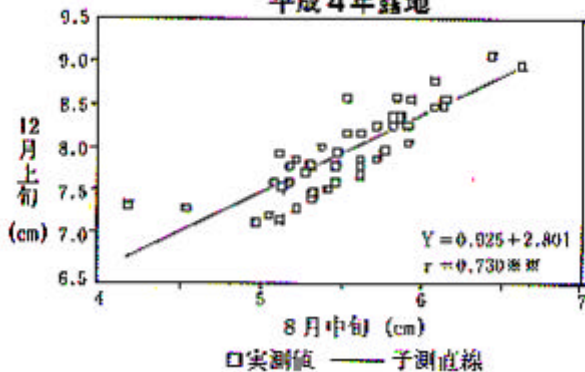
(7月上旬)

第6図 デコボン肥大予測
平成4年露地



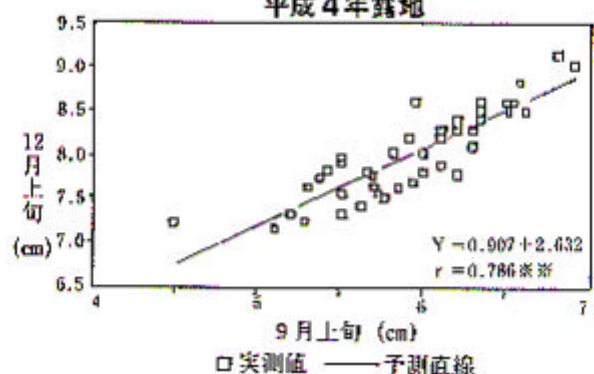
(8月上旬)

第7図 デコボン肥大予測
平成4年露地



(8月中旬)

第8図 デコボン肥大予測
平成4年露地



(9月上旬)